ヤマトホソガムシ　*Hydrochus japonicus* Sharp

【選定理由】

平野部の池、沼、水田に生息する種であるが、多くの水生昆虫同様に生息地の消失、悪化によって著しく減少していると考えられる。

【形　態】

体長 2.5～3mm。体は長く両側はほぼ平行で、黒色で上翅は暗褐となるが緑～藍色の金属光沢を有する。付属物は黄褐色。前胸背には 5～6 個の凹陥があり、上翅は粗大点刻列を具える。体下面は光沢を欠き絨毛状となる。

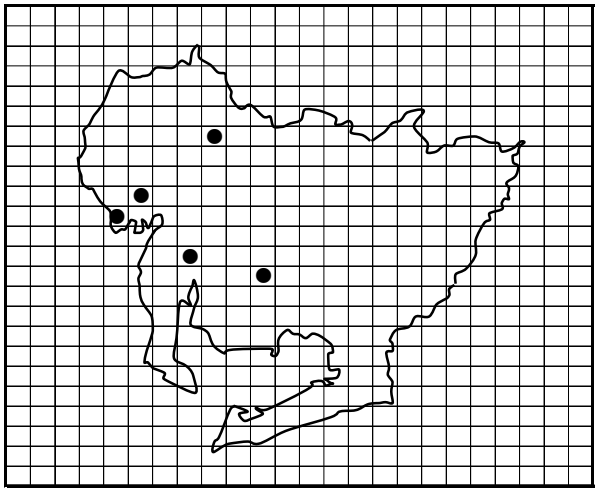
【分布の概要】

【県内の分布】
豊田市広野町（広, 1963; 1966）、岡崎市、名古屋市（穂積・佐藤, 1957）、尾張旭市、弥富市、知多郡東浦町から記録がある。かつては平野部の止水域に広く生息していたと推測される。

【国内の分布】
本州、四国、九州。

【世界の分布】
東南アジア。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

水草が豊富に生育する池沼、水田などに生息する。成虫は時として灯火に飛来する。

【現在の生息状況／減少の要因】

尾張旭市、弥富市、東浦町では 2011～2013 年に確認されている。宅地開発、水田の圃場整備等による生息地の消失、改変、農薬散布や生活汚水による影響を強く受けたことが考えられる。また、水草の豊富な水域に生息する種であることから、アメリカザリガニによる水域環境の悪化も影響があった可能性がある。

【保全上の留意点】

近年生息が確認されている水域、水辺環境をそのまま保全することが、本種の将来的な自然回復の可能性を残すことになるばかりでなく、多くの水生生物にとって最も有効な保全手段である。そのためにも脅威となる侵略的外来種の根絶と、近年水生昆虫に大きな影響が疑われているネオニコチノイド系農薬の影響の有無を調査することが望まれる。

【引用文献】

広 正義, 1963. 矢作川の水生昆虫. 矢作川の自然: 84-142.
広 正義, 1966. 矢作川水系における水生昆虫の群生生態学的研究. 名古屋女子大学紀要, 12: 77-206.
穂積俊文・佐藤正孝, 1957. 東海甲虫誌(第 3 報). 佳香蝶, 9 (31): 1-10.

【関連文献】

佐藤正孝, 1978. 日本産ホソガムシ科概説. 甲虫ニュース, (40): 1-3.

（長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希）